

平成 23 年 度

ふれあい地域懇談会報告書

〈 玉 縄 地 域 〉

1	日 時	平成23年7月28日(木) 午後2時~4時
2	場 所	玉縄学習センター 第4集会室
3	出 席 者	自治・町内会長 23名 玉縄地区社会福祉協議会1名、民生・児童委員第9地区1名、青少年指導員連絡協議会玉縄地区1名、玉縄城址まちづくり会議1名、玉縄女性の会1名 合計28名
4	市側出席者	松尾市長、瀧澤経営企画部長、嶋村防災安全部長、相川健康福祉部長、山内都市整備部長、梅澤玉縄支所長
5	テ ー マ	1 岡本2丁目マンション工事跡地の早期解決のための方策と目途は？ 2 すこやかセンターを近隣火災の際の被災者のための緊急宿泊施設に、また栄光学園を大規模災害時の被災者収容施設に利用出来ないか？ 3 大船フラワーセンター苗ほ跡地の活用計画は、その後どうなっているのか？ 4 道路交通問題 (1)山崎跨線橋北交差点に於ける、藤沢方面から跨線橋への右折レーン新設の可能性と完成見込み時期は？ (2)フラワーセンターからコーナン経由藤沢方面への県道の交通渋滞の解決策は考えられないか？

平成 23 年 11 月 経営企画部 市民相談課

テーマ1 岡本二丁目マンション工事跡地の早期解決のための方策と目途は？

●玉縄自治町内会連合会 田中会長

岡本二丁目マンションは、長期間工事が中断しているが、いつまでも放置しておくのは決してよくない。

また、計画地の上にある民家の人たちも、現状のままであることを心配しているのではないかと思う。従って、なんとか早い時期に解決の道すじをつけることと、この土地の有効利用について伺いたい。

○山内都市整備部長

昨年のふれあい地域懇談会でもご説明したが、階段は早期に復旧をたく、その際には、当該開発区域の安全対策も図れるように、重機等の入れる余地を残しながら階段を復旧していきたいという話をした。

その後、階段を利用されている住民の方々と打ち合わせをしたが、開発前の状況に戻すのが基本であり、それ以外の形では受け入れられないとの話であった。

市としては、階段の壊れたままであるという現状と、利用者のために一刻も早く復旧したいという中で、原状に戻す形で階段の復旧を目指すこととしたところである。

そのために、今年2月の議会に、階段復旧の第一段階として、測量と設計料の補正予算案を上程したが、議会では否決をされた。

議会は、もっと住民や事業者と話し合うべきとの指摘があった。議会の意見は重く受け取らなければならないので、住民の方、事業者とも面談を重ねることが必要になった。

そこで市としては、4つの基本的な考え方を整理し、面談に臨むこととした。

その4つの考え方とは、

- 1 階段を一日も早い復旧を目指すこと。
- 2 市有地の編入や民間への払い下げは行わないこと。
- 3 事業者に対して市有地を使わせない。そこから道路を造ることは認めないこと。
- 4 当該土地の買収は、市としては積極的には考えてはいかないこと。

この4つの考え方を元に、住民の方、事業者と面談し協議した。

まず、住民の方に、この考え方を伝えたところ、賛成で、一刻も早く階段を復旧してほしいとのことであった。仮に、事業者がこの土地を新たに土地利用するというのなら、まずは階段を復旧し、原状に戻してからでないと相談に乗れないとの意見であった。

続いて、事業者にも面談したが、今のところ、特段大きなアクションはない。

市としては、一刻も早く階段復旧を目指したいということで、再度9月議会に、2月議会以降の経過を説明し、予算要求をしていきたい。

○松尾市長

住民の皆さまから、「駅に近い土地なので何らかの活用ができないか」というご提案を以前からいただいております。庁内でも検討してきました。しかし、私の考え方としては、もし、あの場所を活用するということになると、事業者が地域の方々の意向に沿った形で活用計画を作っていたかどうか、市で買い取るか、いずれかの選択になる。

事業者とは数回直接会って話をしているが、当初、出された開発許可が取り消しされたことについて、市に対しての責任を大変強く訴えている。この状況で事業者に、市と地域の方が望むような活用を働きかけ、実現するのは、なかなか難しいと思う。

また、買い取るにしても、金銭的問題や交渉の中で市に対する責任を訴えてくることも考えられる。金額的にも、当該地の評価には、大きな隔たりが出るであろう。

そうした中で、行政としては、公道の一刻も早い復旧が最大の責務であろうということで、議会へ予算案を出させていただいたが、否決をされてしまった。

地元の方のご要望もできる限り受けて、良い活用を進めていきたいが、現実的に裁判で争った経過もあるし、様々な問題のある土地なので、住民の皆さまの要望を叶えることは難しい。しかし、行政としては、しっかりとできることから進めていき、皆様方にご心配をいただかないように、安全な形で復旧できるよう進めていきたい。

●岡本町内会 関会長

今の話を聞くと、ほとんど今の状態を改善することは無理なのかと感じてしまうが、毎日通行している者として、現在の景観の寂くなるような姿を、一刻も早く改善してもらいたいというのが住民としての感情である。今の話だと、見通しがない感じを受けてしまい、非常に重たい気持ちになる。

一刻も早い対処をお願いしたい。

○山内都市整備部長

景観と安全という二つの側面からのご意見だと思う。

安全について、道路側は、階段を復旧することで一部のがけ面はなくなる。

問題は、開発区域内の部分、切ったままになった崖はどうなるのか。

現在も仮設の安全対策は施されているが、市として、安全性を確認するために、月 1 回及び地震などの危険が考えられる時に、土留めの部分に動きがないかを確認する変位測量をやっている。

安全対策については土地所有者に責務があるので、従前より指導をしている。

今回、階段を原状復旧すると、事業者は安全対策もできないのではないという話もあるが、市が図面で示しながら、事業者と協議しており、その中で本格的な安全対策を要請している。

景観について、道路部分については、復旧することで一部の景観は改善されるが、奥の部分については、土地所有者の責務になるので、対応を指導することしかない。

市として、事業者に対し、重ねて要請している状況である。

●大船コーポピアネーズ管理組合 西村会長

23年2月の予算のことで、地元住民との話し合いが足りないのではないかという説明だったが、私を知る限り、この予算が否決されたのは、本質的解決になっておらず、市はこれからまた同じような失敗を繰り返す、だから認めないという新聞報道に接して、地元の市議会議員にも確認した。

実施内容が2月と同じであれば、予算は認められないのではないか。予算を認められなければ事業は進んでいかない。予算が認められる根拠はあるのか。

○山内都市整備部長

2月に上程した予算案は、工事着工に結びつく見通しのない状況であり、根本的解決するには市長が中心となり事業者と住人との十分な協議を進め、市民の安全安心に寄与するような土地利用を見出すべきであるというのが議会からいただいた意見である。

これを受けて、私どもも周辺の住民の方及び事業者と話をした。

周辺の住民の方は、土地利用よりも、階段を復旧するのが第一だと主張されている。

そうすると、住民の方々が望んでいる階段に対して考えなければいけない。9月議会にも、周辺住民の意見を説明し、第一に階段を復旧したいことで、お認めいただきたいと議会に説明し、ご理解をいただくしかないと思う。

●大船コーポピアネーズ管理組合 西村会長

これから議会に理解を得るのか。

○山内都市整備部長

周辺住民の意向は固い。まずは、階段を復旧させることを重ねてお願いしていく。

●玉縄自治町内会連合会 田中会長

階段を復旧しても、後に何か造るとき、その造った階段を壊すことになると思うが、結局無駄な工事になるのではないかと。

また、工事方法によっても負担する金額が大きく違ってくるのではないかと。

○山内都市整備部長

重機が入るには、最低でも3メートルの平地がないと重機が入っていけない。

現状で復旧すると1.5メートルぐらいの平場しかなく、一番高いところで40～50センチメートルの段差が出てくる。その部分は、少し大きな土嚢で埋めて、重機を入れる。

技術面について、いろいろなシミュレーションをして、可能であろうことを、事業者にも説明し

ている。

市では、最初は平地を確保して、そこから階段を造るということで考えていたが、周辺住民の方にも、将来的に安全対策も支障なくできることも含め、この方法で階段復旧をさせてほしい旨を説明した。しかし、一番階段を利用する方が、そもそも開発の間違いからこういう状況になったのだから、開発前の形に戻す以外はまったく話に乗れないとのことである。

我々、道路管理者としては、あの階段を壊れた状態でずっと放っておくというのは、道路管理者の責任を放棄するに等しく、ならば、一番利用する方々の望む形の階段復旧を目指すべく整備をしていく。その際にも、安全対策上も可能だという判断をして、原状復旧を行う。

●山王町内会 吉田会長

階段の原状復帰ということだが、相当の費用をかけて実施すると思う。

上に数世帯の方が住んでいるが、生活道路が復旧することで、上の住人の方は満足かもしれないが、この問題は、上に住んでいる方だけの問題ではない。大船駅西口全体の将来を考えた場合には、あの場所は相当重要な場所である。上の数世帯の意見だけでこの問題を決めるのは、西口の住民にとっては非常に納得できない問題だと思う。

もう一つは、この問題は、鎌倉市が与えてはいけぬ開発許可を与えたことが始まりである。その反省が、まずできていないのではないか。

今まできちんとした説明もないし、責任を取った人も誰もいない。開発許可をおろしてしまったこと自体が重大なことではないか。まずは、その反省に基づいた場がない。

階段だけ造っても、あの土地は市では買収取らないし、事業者にも開発させない。

私は事業者の立場で言うのではないが、業者は一度許可を得て開発を始めたものが、事業が進められなくなってしまうのだから、これに対応する損害賠償の問題が当然出てくる。その見通しが無いまま、階段だけ造って生活道路が復旧したというだけでは本当に解決しない。

そこまで考えてやらないと、はじめもついていない話が、階段だけ造って幕引きになってしまう。これは行政としては非常にまずい対応で、こんな話は聞いたことはない。責任は誰がどのようにとっているのか、いきさつについて説明してほしい。全然市民に対して今まで説明がない。7年前の話であるが、行政は継続しているのだから、今の市長が説明の必要がある。

行政側が誤った開発許可をおろしてしまった事実をクリアーにしていけないと、理解できないまま、この話が変な方向に進んでいく可能性がある。行政に対する不信が、より渦巻くのではないか。

また、がけの崩したところを解決しないまま何年も放置しておくという、鎌倉市の対応を、住民からも外からも指摘される。これは非常にまずいと思う。はっきりとご説明いただきたい。

○山内都市整備部長

階段の復旧は根本的な解決にならないとの指摘はそのとおりである。市で当該地に宅地

造成の許可も下ろして、宅造許可は有効な状態である。

仮設の安全対策は一定程度できているが、恒久的な安全対策はできていない。市が恒久的な安全対策について、市の開発許可担当が、今後も相手に対し指導し、書面でどういう計画にするのかを確認する。

恒久的な安全対策ができないと最終の解決にはならないと考えている。

市の責任問題については、聞くところによると、市の許認可の事務処理が不適當であったということで、関係者は処分を受けている。

●山王町内会 吉田会長

どういう処分をされたか発表されたか。

○山内都市整備部長

当時の新聞等に掲載されたと思う。重い処分ではなかったと思うが、一定の処分はされたと聞いている。

●山王町内会 吉田会長

本来許可すべきでないものを許可したということになると、行政はたくさんの許認可業務をやっているのだから、その中で許可すべきでないものを許可したり、あるいは、業者がいろいろな手を使って、無理な許可を得るケースもあるのではないかと聞いている。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

ご指摘のポイントは、きわめて重要なことではあるが、今後の解決策に向けて議論を進めたい。

●山王町内会 吉田会長

責任問題については、今の状態で追求しても、あまり実りがないかも分からないが、問題点がクリアでない。

階段問題は、階段だけ修復しても解決しない。その次の全体的な開発というか解決策が見えてこないという意味がない。将来展望をきちんと考えたうえで、階段を修復するようにしないと意味がないと思う。高い次元で解決策を探っていくと、いつまで経っても解決できない問題だと思える。

●関谷城廻町内会 正木会長

朝日新聞、6月21日の記事に、開発で壊された生活道路の早期復旧を進め、新たな開発には協力しない方針を業者に伝えたという記事が載っているが、復旧といっても元の道路までは、事業者側の土地に入らないと道路の復旧が出来ないのだという説明を受けていた。

そういう観点から、最初のところまで壊した階段を造るのは不可能だと思っていたが、事業者側の土地を使って復旧するのか。

○山内都市整備部長

当時は、元通りに階段を復旧するというので、そのためには事業者の土地に構造物を造らないと難しいという話をしたが、現在は、事業者の土地に構造物を造るのは絶対無理である。したがって、今の階段と、その間にある 260-2 という市有地を使う。

工事のために立ち入ることは、法律で認められているが、構造物を造れない中で、市有地だけで階段を復旧する計画を検討している。

●関谷城廻町内会 正木会長

それは、可能なのか。

○山内都市整備部長

我々の概略設計では、可能と判断している。詳細設計については業者でないとできない。

●観音山町内会 永松会長

事業者側の立場もひしひしと身にしみるところがあるが、私の町内会は坂の上にあって、車両が通れる道路は一本しかない。がけが崩れてしまうと消防車が上がってこられなくなってしまいますので、火災が起きたときなど非常に困る。当該地について、階段を復旧するのもいいかもしれないが、上の住民の方のためにも、もう少し道幅を広げて、消防車でも入ってこられるような道路を造るという計画を、住民の方にもメリットがあるということで投げかけて、話を進めることは不可能なのか。

○山内都市整備部長

当該地の形状から、道路勾配の基準や市有地だけ復旧することを考えると、既存の階段を復旧するのが一番良い。車などは裏から入れる。

●観音山町内会 永松会長

提案をしてみれば、その案について賛成されるかもしれない。

○山内都市整備部長

ご指摘のような提案はしていないが、これまでも、いろいろ提案させていただいている。

住民の方は元通りを望み、まったく話し合うつもりはないという強い意向を示されているので、市としても、その意向に沿って進めるしかないということになっている。

●観音山町内会 永松会長

感情的になっていると、元の状態に戻してほしいという意見が強くなると思うが、自分たちの益にもなるということで話し合いを進められると、柔軟な対応をされることもあるかもしれない。

階段を復旧しても、また開発の際に壊すことになる。税金を無駄遣いしてほしくない。

なるべく無駄のない状態で、今後のためにも、住民の方のためにもいい方法があるのではないか。主婦目線だが、今後、検討していただければと思う。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

大方の皆さんのご意見をお聞きしたわけではないが、発言者の意見を総合すると、階段の原状復旧は、根本的な解決にならないから無駄ではないかとの意見が大勢ではないかと思う。

○松尾市長

階段の復旧はこれで終わりというわけでは決していない。まずはこれをやらせていただく。事業者も態度を硬化させており、裁判をするような姿勢も見せてきている中で、ぎりぎりの折衝が続いているが、行政としては、まずは階段を復旧した後に、当該地の安全対策を引き続き要望していくということになる。

階段を造った後に、それを壊して開発という話があったが、決して造ったものを壊す前提ではないことをご理解いただきたい。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

9月議会に改めて2月議会と同様の予算を提案することだが、再度、議会で否決された場合、次に何をやるのか。

○松尾市長

私としては、この方法以外は取れないと私は思っている。

2月議会で否決されたが、改めて議会の方々には理解をいただくべく説明をする。

否決された理由として、事業者と住民としっかり話し合いを、市長が中心となって行うようにという指摘があった。従前から事業者とも住民とも話し合いは続けているが、それを踏まえたうえでの指摘なので、改めて事業者と住民と話をした結論を、説明させていただきたいと思っている。

早期に解決したい思いが、私としても強くあるが、これまでの経緯もあり、どうアプローチしても一気に問題解決ということは現実的にできないであろうと考えている。

ぜひ、その第一歩を認めていただいて、先に進めさせていただきたいと考えている。

テーマ2 すこやかセンターを近隣火災の際の被災者のための緊急宿泊施設に、また栄光学園を大規模災害時の被災者収容施設に利用できないか？

●玉縄台自治会 葛西会長

すこやかセンターに関するテーマについては、平成 20 年に自治会内のアパートで火災があり、全焼 2 戸、周辺の家も冠水した。この火災により、その夜から泊まる先がどこにも無いという人が 6 人いた。何とか 3 人の宿泊先は確保できたが、残り 3 人は泊まる場所が無いので、すこやかセンターに相談した。

しかし、結論的には管理上の問題で難しいということで断られた。結果としては、寝具も何にも無かったが、自治会館に泊まってもらった。

今後、同様なことが起こった場合、どのように解決したらいいのか、ずっと問題として残っていたが、過日の東日本大震災の際、市はすこやかセンターを避難所として開放すると発表をした。それならば、近隣住民にも緊急の時には貸してもらってもいいのではないかという思いである。

栄光学園に関するテーマについては、大きな災害があつて避難の必要が出たときに、市立小中学校をミニ防災拠点という避難所として開放することが決まっている。一方、私立の栄光学園や清泉女学院は広域避難場所として指定されている。

この指定については、何の疑義もないが、私共の住宅街は坂が多く、ミニ防災拠点である関谷小学校に行くまでの坂が急であり、なおかつ、災害時要援護者という方が多数いる。

私は住民に対して、広域避難場所である栄光学園には泊めてもらえないと説明してきたが、住民側は大変疑問を持ったので、栄光学園の校長に聞いたところ、「学校では職員と生徒の数の備蓄はしている。大きな災害時は受け入れはする。ただ、鎌倉市から了承をいただいている。」という返事だったと言う。原則を曲げる必要はないが、受け入れ先が制限を設けたうえで、避難者を受け入れてくれるのであれば、そこも避難場所とするべきではないか。

○相川健康福祉部長

平成 20 年 7 月、10 世帯が被災する火災があり、そのうち数名の方について、会長さん住民の皆さんのご尽力で、一時避難を受け入れていただいたと聞いている。

火災に遭われた方が、住むところを見つけられないケースもあると思う。

一義的には市営住宅が空いていれば、優先的に入居していただく。

●玉縄台自治会 葛西会長

その点は話し合った。ところが器具が付いてないから使えないと言われた。

○相川健康福祉部長

市営住宅が使える状態で空いているわけではないので、実際にはすぐには使えない。緊

急でなく、長期間住まいがない状態であれば、市営住宅が一義的に住居として確保できるところである。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

緊急の話をしている。いわゆる避難ではなく、緊急の際の市の立場の説明をしてほしい。

○相川健康福祉部長

老人センターの大広間を避難受け入れのために使えるかもしれない。しかし、行政の施設については施設本来の目的もあり、緊急にお貸しするというのは難しいというのが答えになってしまう。

東日本大震災の際は、鎌倉市だけでなく、多くの自治体で体育館や宿泊施設などを開放して一時避難を受け入れた。鎌倉市でも老人センターは炊事ができ、風呂もあるので、一時的かつ少ない世帯数であれば、老人センターを使っていただく。大規模な避難の受け入れになる場合は、体育館を避難場所として提供することで、緊急的に今回のみ実施したということである。

大きな火災、災害による避難対応については、避難場所を開設することで対応するが、それ以外の災害対応は、今のところ困難であると考えている。

○嶋村防災安全部長

市の地域防災計画では、鎌倉市立の小中学校 25 校のミニ防災拠点になる。そこには備蓄品があり、開設時には職員を派遣して避難所を開設する。

ミニ防災拠点だけでは収容しきれない場合は、二次的な場所を確保しなければならないため、県立高校、私立学校にも、被災者受け入れの協力をいただけるという流れになっている。玉縄地域では、栄光学園、清泉女学院、県立養護学校が対象になる。

ミニ防災拠点で受け入れきれない大災害の場合には開放していただく。ただ、備蓄品は、先生や生徒のための備蓄のみである。

東日本大震災のときは、観光客約 5,000 人が鎌倉から出られなくなった。しかし、5,000 人をミニ防災拠点に収容しようとしても収容しきれない。そこで、本来、避難所ではない鎌倉芸術館、鎌倉武道館、鎌倉体育館、大船体育館、横浜国大附属小中学校を急遽開放した。備蓄が無いので、ミニ防災拠点の倉庫から搬送班が運んだ。

もし、栄光学園に逃げられた場合は、市から備蓄品を搬送する。栄光学園は、避難場所として協力いただけることにはなっている。ただ、そこを使うかどうかは、その時の判断である。大規模な災害でなければ、ミニ防災拠点に行ってください。

その災害の状況によって、そこを開設するかどうかという判断になる。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

質問の意図と回答がかみ合っていないような気がする。すこやかセンターについては、被災したその夜など、当座の一時避難にすこやかセンターを開放してもらえないかということ。

栄光学園については、お年寄りが多く、かつ、坂が急で大変だから、すぐ前の栄光学園を避難場所にしてもらえないかということだと思う。

●玉縄台自治会 葛西会長

1点目であるが、すこやかセンターは用途が決まっている、スケジュールが詰まっているというお答えであったが、私は緊急の場合のことをお願いしている。すこやかセンターで行われているのは経済活動ではないし、行事をやめたために損害が大きく出るわけでもない。そういった意味で、用途が決まっていてスケジュールが詰まっているから、他の用途に活かすことができないというのは、回答としては誠に不満である。

市の施設で、ゆとりの部屋もあり、かつ、緊急の場合であることから、大変疑問に思っている。

栄光学園の問題も原則は知っている。その上で、住民側で制限を設けるし、最悪の場合でも少人数にとどめようと思っている。しかも、栄光学園も、市が了承すれば受け入れると言っているのであるから、これも、他の施設が溢れたときにというのは、ポイントが違っていると思う。

○相川健康福祉部長

一般的に火災の場合は、自分で探していただくか、親族の方にご協力いただくというのが基本的にはある。その次として、自治会町内会やご近所の方の、協力をいただくことになる。

玉縄地域では、すこやかセンターが近くにあるということだが、今の段階では全市的に同じ扱いをさせていただきたい。公共施設の開放ということなら、すこやかセンターだけの話しではなくなるので、今後、検討させていただきたい。

○嶋村防災安全部長

当然、緊急の場合は栄光学園に限らず、現実にはさきほど申し上げた形で開いているところがあるので、一般的な話をさせていただいた。

近くの安全な場所と言うことで避難していただくことは問題ない。

ただ、地域防災計画の中に、避難所、ミニ防災拠点として位置付けるのは別の問題である。

ミニ防災拠点とすれば、備蓄品の配備、保管、対応職員の配置などを整備しなければならない。また、栄光学園で言えば、まず生徒、そして職員を第一に守るべき責務がある中で、市の避難所機能を受け入れてもらうことには無理がある。したがって、今の時点でそこまでは考えていない。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

大規模災害のみならず、小規模の火災であっても、焼き出されて、その夜、いる場所さえ無いという状況は、どこでも起こりうるので、市民の安全確保を第一優先して、対処すべき事柄であると思う。杓子定規ではなく、再度検討をお願いしたい。

●玉縄台自治会 葛西会長

私は原則を変えろと申し上げているのではない。あくまで、緊急の際、応用的に、もう一工夫していただきたい。

●城廻自治会 渡辺会長

今の話を聞いていると、実体験をしていない人が答えているので、まったく平行線の話しにしかならない。想定外の事態が起きた場合にどうするかということは、誰かがこれを指示し、リードしない限りは、根本的解決にまったくならない。

また、被災した人は路頭に迷っているのだから、その人に努力しろと言うのは、論外の話である。

行政職員が一番、町を知っているような立場にならなければ、防災を含めた行政としての対応が全く取れないと思う。行政職員は現地をよく頭に入れて、災害の時に指示、対応の系統をきちんと理解して、態勢を整えないと、防災対策はただの言葉の遊びになってしまうのではないかと思う。

●大船コーポピアネーズ管理組合 西村会長

自分の命を守るのは自分であり、行政は守ってはくれない。行政にその責任を押し付けても無駄である。だから、自主防災組織が動き始めた。

この玉縄地区では10年ほど前から、地域内のいろいろな施設の人たちと話してきて、協力しましょうということで、協定は結んだが、それから進んでこなかった。

そこで今、小永井さんをリーダーとして、スタートしたばかりである。

「行政がやってくれないから」という話はもうやめようと、自主防の総会の際に私は申し上げた。人に、命を預けるのはやめよう、自分の命は自分で守ろう、地域の人たちが困っていたら助け合おう、そのためには何をしなければいけないか、例を挙げたらきりが無い。

まだ、多くの時間が必要であるが、行政と住民の間を、あるいは町内会の間を何とか取り持ってまとめていく。助け合いの方針は必ず出すので、それまで時間をいただきたい。

各戸に私小永井さんが訪問するので、そのときはご協力をお願いしたい。

市の総合防災部に宿題は随時投げかけてあるし、その回答は逐一もらっている。

実現性のある対策を講じるために、逐一やっていくのでもう少しお時間をいただきたい。

●玉縄地区社会福祉協議会 小永井会長

この地域には、社会福祉施設が 10 施設ある。災害が起こった時に、各施設と地域がどのように協力したら、安心して避難ができるのかを考えて、平成10年に施設、社協、自町連の三者で、災害時に協力し合う旨の協定書を作っている。行政にも届けている。

ただ、具体的な運用については、まだ話し合いがもたれていない。

災害があったときに、各施設には堅ろうな建物と、ノウハウを地域に提供していただく。

地域住民は施設に入所している方々のお世話をする約束ができています。

今後、詰めていく問題がたくさんある。特に、消防との関係、あるいは、地域の消防団との関係、こういったことも織り込んでいかないと具体的に回っていかない。

地域が施設と協力する一番大きな利点は、在宅でケアを受けているお年寄りが非常に多く、そういう方々が、避難所に行くことは大変なことであり、また、本人も十分な世話を受けにくい。避難されている方の迷惑にもなる。

施設の建物は堅ろうであり、かつ、必要な施設、サービスが整っている。地域と話し合いをして、非常時に有効に、そのシステムが動くかを考えていこうということで、西村会長とも話した。

今後それを取り上げていく方法としては、玉縄地区では、行政を含めて、地域ケア会議を持っている。その中で具体的にどのように進めていくかということを詰めて、町内会、自主防、消防団などの協力を得て、より実現可能なシステムを作っていきたい。

テーマ3 大船フラワーセンター苗ほ跡地の活用計画は、その後どうなっているのか？

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

市が県から約 6,000 平方メートル土地を譲り受けて、福祉支援施設、調整池、公園的整備をするプランを、4 年ほど前から説明いただいている。また、今年 3 月には更地化が終わっている。ヒ素が検出されたことが、遅延の理由と思うが、今後についてご説明願いたい。

○瀧澤経営企画部長

やはり土壌問題が一番の問題である。子育て関連施設であるので、環境基準を上回る有害物質が検出されている中で、そこを公共施設用地として取得するには難がある、市の環境部もそういう考え方を示している。

県は、10メートルメッシュで検出された 2 箇所については土壌改良をしないと、予算化も進めている。ただ、問題は地下水で、その対応策が現実にはとれない。

市の考え方として県に示しているのは、少なくとも汚染物質が検出されていない部分の 2,000 平方メートルは、子育て支援施設として必要なもので、その部分についてはできるだけ早くとりかかりたいという申し入れをしている。残りの 4,000 平方メートルは、今、非常に財政状

況が厳しいため、土壌問題が解決してから話しを進めたいと伝えている。

市としては、汚染された土壌であることを前提に買うので、もし汚染物質が出たときは売り手の県でのほうで対応してもらおう旨の瑕疵担保条件を付けたい。県は将来にリスクを負うので良い回答が出ない状況である。

条件が整えば、こども部からも子育て支援施設が玉縄に必要であるとの計画が出ているので、平成 27 年度までの後期実施計画の中に位置づけていきたい。

調整池も玉縄地域の大事な課題であるが、子育て支援施設が終わった後のテーマとして掲げていく。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

子育て支援施設は、フラワーセンターに隣接するのか。

○瀧澤経営企画部長

ロジュマン側の 2000 平方メートルである。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

県と条件が整ったら、どれくらいの期間で、市は建設完成まで持っていくのか。

○瀧澤経営企画部長

県は早く買ってほしいと言っている。企画部門としては、早く進めていきたい。

土地を買った後に一番心配なのは、瑕疵担保責任を付けたとしても、環境基準以上のヒ素が検出された経緯のある土地なので、建築の際には必ず調査しなければならない。その際、汚染物質が再検出されたならば、2,000 平方メートル全部の土壌改良が必要である。

何も無い状態なら、恐らく後期実施計画の平成 27 年度までのスケジュールが最短では組めるが、実現できるかどうかは不明である。また、土壌汚染問題がなくても、今、鎌倉市が抱えている行政問題が山積していて、その中で優先度を選択していかなければならない。今の段階では明確にお答えしづらいが、これまでの経緯から優先度が高いと認識している。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

子育て支援施設の約 2,000 平方メートルがロジュマン側になるということは、以前のプランとは違ったものになるのか。今までのプランも白紙か。

○瀧澤経営企画部長

4 年前に示した図案と別の構想を、近接する市有地の部分も含め、新しく作っていかなければならない。

テーマ4 道路交通問題

- (1) 山崎跨線橋北交差点に於ける、藤沢方面から跨線橋への右折レーン新設の可能性と完成見込み時期は？
- (2) フラワーセンターからコーナン経由藤沢方面への県道の交通渋滞の解決策は考えられないか？

○山内都市整備部長

山崎跨線橋の北交差点、ロジマン側からは、平日の夕方や休日の午後から夜に渋滞が多発する。この渋滞を解決するために、フラワーセンターの土地を一部取得して道路を広げ、右折レーンを延長することで、神奈川県と打ち合わせをしている。

しかし、用地を買うとなると、土壤調査や取得費用の問題などがあるので、まず、市ができることとして、来年度、信号の現示を変え、ロジマン側からの時間を長く取ることによって、渋滞緩和への効果を実験することで、警察と協議を進めている。来年度には実施したいと考えている。

ただ、効果が出ない場合も想定できるので、右折レーンの延長についても、県と協議を進めている。

実験の効果を見たうえで考えていきたい。

●鎌倉ロジマン自治会 石井会長

このテーマは、グランマークスの人たちの願いである。問題提起してから 5 年経っており、その間に湘南鎌倉病院もできて、ますます交通渋滞がひどくなり、何とかされたいと思っている。

●青少年指導員連絡協議会玉縄地区 三浦地区長

右折の信号を長くしてその様子を見るとのことだが、現地に右折の信号など無い。あそここの信号は直進しかない。

私は 5 年前に、右折の信号をつけるか、時差信号にして右折の車両がたくさん通れるようにしたらどうかと提案した。それが、今になって右折の信号も無いのに、信号を長くして様子を見ると言うことか。

長くしたら藤沢方面へ行く直進車が増えるばかりで、右折はいつまで経っても流れない。

○山内都市整備部長

大船方面から来る車を先に止めて、ロジマン側を少し延ばす。

●青少年指導員連絡協議会玉縄地区 三浦地区長
今、時差信号になっていない。

○山内都市整備部長
それを実験しようとしている。

●青少年指導員連絡協議会玉縄地区 三浦地区長
最初に問題提起した年の翌年だったと思うが、時差信号は付けられないという話であった。

詳しい理由は忘れたが、時差信号をつけると、県道のほうに問題が起きるから、時差信号が付けられないという話であった。しかもそれは、湘南鎌倉病院ができる前の話しである。病院ができてから、市の交通量の調査をしたのかは知らないが、交通量は増えている。それを考慮しているのか知らないが、今になって、それを棚上げして、時差信号をつけて様子を見る、検討すると言われても納得できない。

○山内都市整備部長
県警本部の担当とは話をしており、右折レーンを伸ばしてもそれほど効果が無く、信号の現示を整備するほうが効果があるのではないかという意見もあり、それならば一回交通実験をやってみて、効果があるかを確認して、効果が無ければ、今、平行して進めている用地取得について考えることで進めている。

●青少年指導員連絡協議会玉縄地区 三浦地区長
では、広域信号の問題は解決したのか。

○山内都市整備部長
実験をした時に、広域にどういう影響が出るかも含めて実験する。

●青少年指導員連絡協議会玉縄地区 三浦地区長
広域に問題があるから時差信号または右折信号は付けられないという結論であった。それは変わったのか。

○山内都市整備部長
今、進めているという形でご理解いただきたい。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長
この問題については、もう5年が経っている。早急に現状が改善できるようにしてほしい。

続いて(2)について。

○山内都市整備部長

コーナン鎌倉大船モール前で、非常に渋滞していることは承知しているが、有効な手段がまだ導き出されていない。

駐車場利用者については、店舗利用者しか停められないようなシステムに改善していただいているが、相変わらず渋滞は続いていると認識している。

原因について、現地を見たところ、駐車場に入る車と歩道の利用者が交錯することが上げられる。歩行者優先は当然であるが、駐車場への誘導の仕方を工夫していただくとか、滞留スペースを検討できないかを投げかけるなど、有効な対策について、内部で検討している。

●鎌倉ロジュマン自治会 石井会長

交通問題は、放置して改善できるとは考えられない。早急かつ現実的な対策を考えていただかないと、極めて大きな市民経済の損失になると思う。

●玉縄自治町内会連合会 田中会長

私は近所に住んでいて、皆さんが渋滞して困るという話を聞く。私も解決は難しいと思っていたが、有効な対策をしてもらえれば、ある程度は緩和できるのではないかと感じた。

道路改良整備をするのは大変だと思うので、もう少し歩行者と自転車の誘導の仕方を考えたら、ある程度の効果があるのではないかと私は思う。